

サーバー・PC・モバイルデバイスを一元管理する

Endpoint Central 製品紹介セミナー

ゾーホーヤapan株式会社

本動画でお伝えすること

- ✓ 統合エンドポイント管理ツール「Endpoint Central」の特徴、主要機能で解決できる課題

※統合エンドポイント管理（UEM）ツールとは、PC、モバイルデバイスなどの様々なデバイスを単一の製品、コンソールで一元管理できる製品のこと

視聴をおすすめする方

- ✓ 情報システム部門にて、**PCやモバイルデバイスの管理を担当**している方
- ✓ **IT資産管理ツール、統合エンドポイント管理ツールの導入**に関心がある方
- ✓ 必要十分な機能を**低価格から利用できる製品**を探している方
- ✓ 手軽に導入できて、**テレワーク端末も簡単に管理**できる製品を探している方

Endpoint Centralの特徴や機能を20分で紹介します

アジェンダ

1

IT資産管理・モバイルデバイス管理のよくある課題

2

Endpoint Centralの3つの特徴

3

Endpoint Centralの主要機能の紹介

4

参考情報

Endpoint Centralの特徴や機能を20分で紹介します

IT資産管理・モバイルデバイス管理のよくある課題

IT資産管理台帳を整備できていない

× ハードウェア

組織で保有しているPCの台数を正確に記録できていない

× ソフトウェア

社員がPCにインストールしているソフトウェアを把握できていない

× ライセンス

購入数と利用実態を適切に管理しておらず、コンプライアンス違反の恐れがある

セキュリティ対策を実施できていない

× パッチ管理

古いバージョンのソフトウェアを使い続けており、脆弱性対策を行っていない

× USB制御

USBデバイスを使って、社員が組織の機密情報を不正に持ち出せる状態になっている

× 紛失盗難対策

モバイル端末を紛失した場合、データを遠隔から削除できる仕組みがない

Endpoint Centralなら、これらの課題をすべて解決できます

アジェンダ

1

IT資産管理・モバイルデバイス管理のよくある課題

2

Endpoint Centralの3つの特徴

3

Endpoint Centralの主要機能の紹介

4

参考情報

Endpoint Centralの特徴や機能を20分で紹介します

Endpoint Centralの3つの特徴



オンプレミス版とクラウド版から
利用形態を選べる



サーバー・クライアントPC・
モバイル端末を一元管理



業務効率化・セキュリティ強化を
低価格で実現

3つの特徴について順番に解説します

特徴1 | オンプレミス版・クラウド版から利用形態を選べる

社内サーバー・ネットワーク内で利用したいなら
オンプレミス版

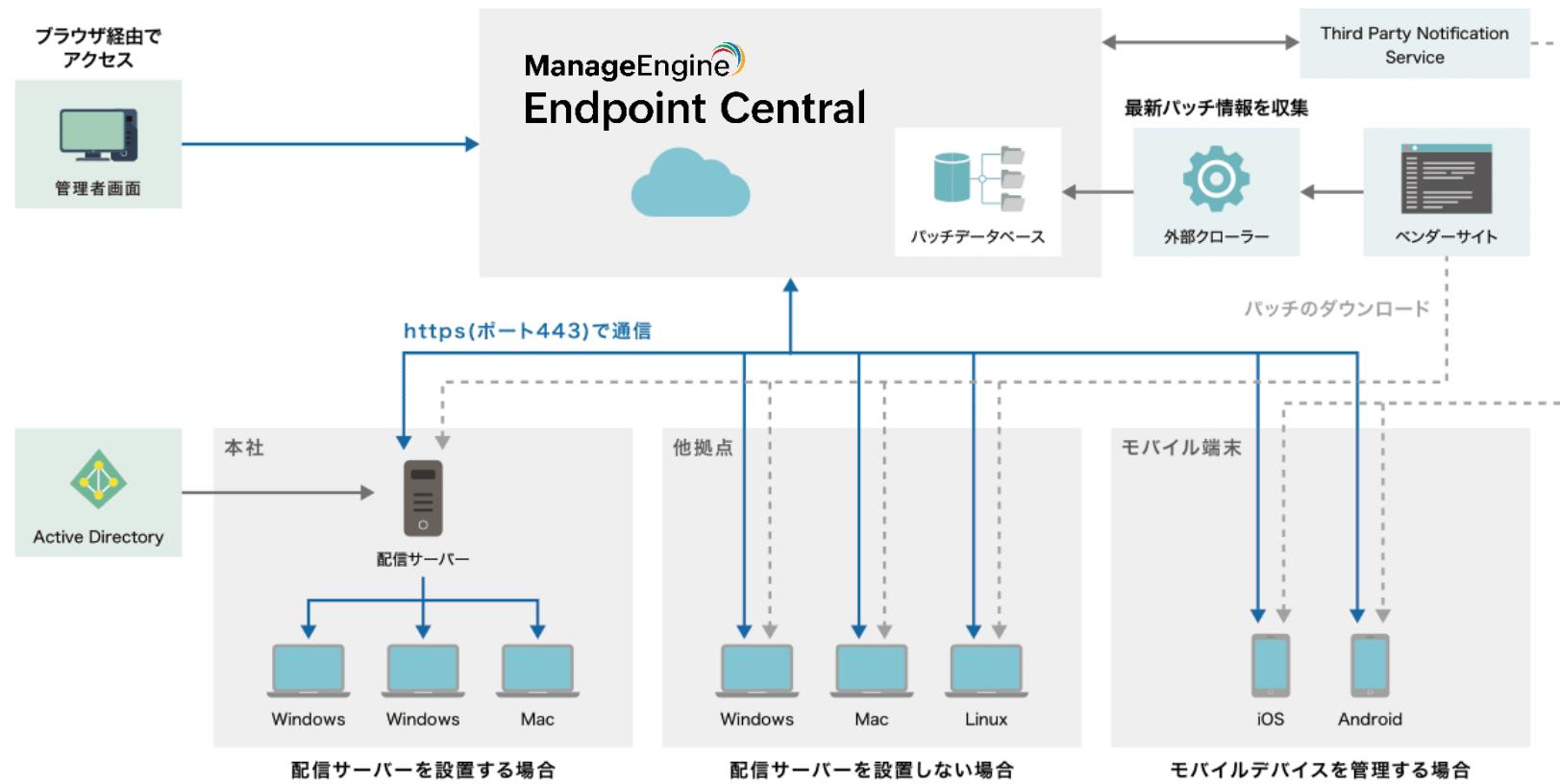
- ✓ グローバルでは**2005年から販売開始**しており、世界3万社以上の導入実績をもつ
- ✓ データベースとWebサーバーは**バンドル済み**のパッケージ製品であるため、インストールを含め1時間程度で使い始められる

テレワーク端末も手軽に管理したいなら
クラウド版 (SaaS版)

- ✓ 働き方の多様化、クラウドシフトで生まれた需要に応えるため、**2020年から販売開始**
- ✓ **サーバーを構築する必要がない**ため、手軽に導入できる
- ✓ 社内ネットワークに接続しない**テレワーク端末も、インターネット経由で管理**できる

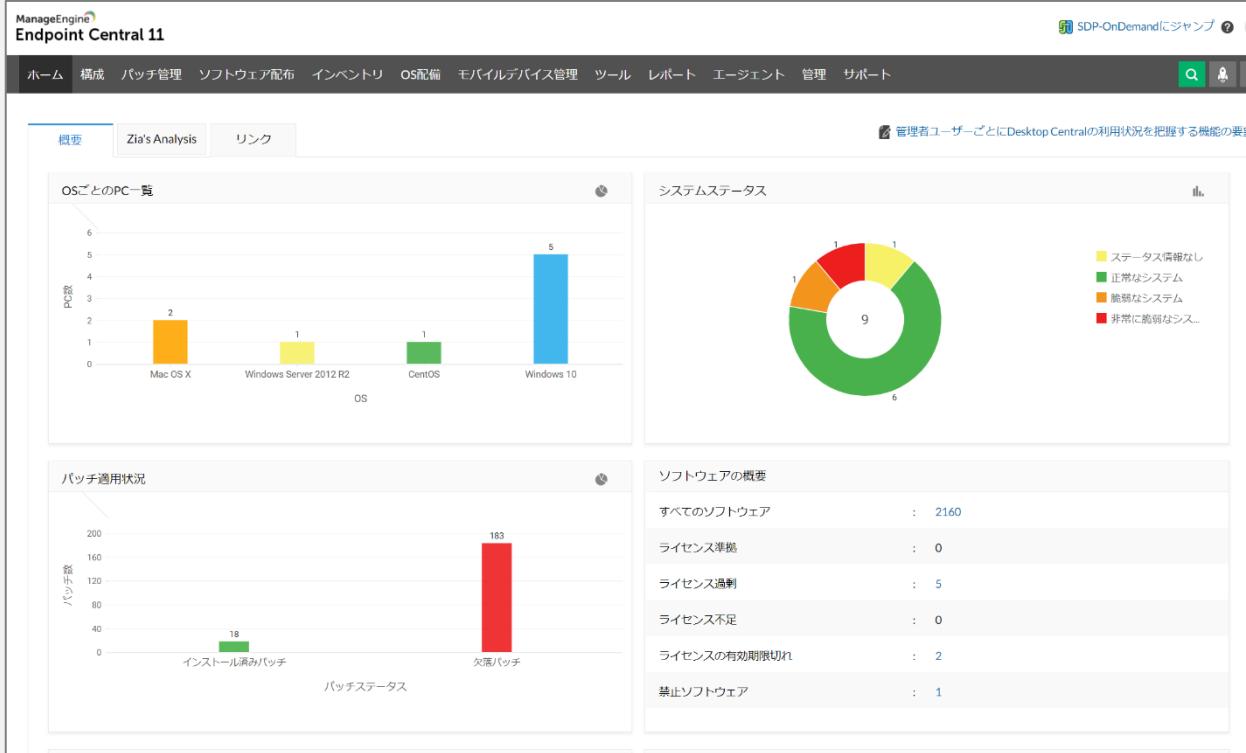
近年はテレワーク促進の影響を受けて、クラウド版の導入数が増加しています

クラウド版のアーキテクチャイメージ



テレワーク中の端末管理にも、VPN接続は必要ありません

特徴2 | サーバー・PC・モバイルデバイスを一元管理できる



※Endpoint Centralで管理できるOSの詳細は「[動作環境・システム要件](#)」ページで確認できます

様々なOSのデバイスを1つのコンソールでまとめて管理できます

特徴3 | 情シス業務効率化・セキュリティ強化を低価格で実現できる



パッチ管理



モバイルデバイス管理



リモートコントロール



ソフトウェア配布



電源管理



USB制御



インベントリ管理



システムマネージャー



スクリプト配布

最も安価なライセンスなら **年間21.8万円～** すべての機能を利用可能

=コンピューター1台あたりの月額費用は約365円

※50台のコンピューターを管理する場合の月間換算費用。詳細は「[価格](#)」ページで確認できます

Endpoint Centralは、コストパフォーマンスの高い製品です

アジェンダ

1

IT資産管理・モバイルデバイス管理のよくある課題

2

Endpoint Centralの3つの特徴

3

Endpoint Centralの主要機能の紹介

4

参考情報

Endpoint Centralの特徴や機能を20分で紹介します

本日ご紹介する機能

1

インベントリ管理

IT資産管理の効率化

ハードウェア・ソフトウェアの最新情報を自動収集

2

パッチ管理

セキュリティの強化

脆弱性検出・パッチ適用を自動化

3

ソフトウェア配布

セキュリティの強化

ソフトウェアを一括管理・セルフサービスポータルを活用

4

USB制御

セキュリティの強化

利用できるUSBデバイスを制限

5

構成

セキュリティの強化

端末に同一の設定を一括適用

6

リモートコントロール

情シス業務の効率化

円滑なトラブルシューティングを遠隔から実施

7

レポート

情シス業務の効率化

監査や会議に使えるレポートをワンクリックで作成

8

モバイルデバイス管理

IT資産管理の効率化

同一コンソールでMDMも可

セキュリティの強化

※オンプレミス版とクラウド版の機能差異については、[こちらのWebページ](#)で確認できます

Endpoint Centralの主要機能について順番に解説します

「表計算シートでの資産管理台帳作成に手間がかかる」「台帳の更新作業ができるおらず正確な情報が不明」とお悩みではありませんか？
Endpoint Centralは、端末のインベントリ情報を自動で収集し、正確なハードウェア・ソフトウェア台帳の作成を強力にサポートします。

取得できる情報の一例

ハードウェア

CPU型番, メモリ容量, USB使用履歴

ソフトウェア

インストールされているOSやアプリケーションの名称, バージョン

※取得した情報は、
PDF, CSV, XLS形式で出力することも可能

端末にインストールされたエージェントから、詳細で正確な情報を収集します

Endpoint Centralのインベントリ管理機能では、ライセンス管理も実施できます。組織で保有しているライセンスの数量と利用実態を管理することで、ライセンスの過剰な保有やコンプライアンス違反を防ぎます。

ライセンスの管理 > ライセンス詳細

ライセンス詳細

総ライセンス数、ライセンスキーや購入日、と関連するコンピューターなどのソフトウェアライセンス情報の詳細を閲覧します。

PDFをエクスポート

ソフトウェア情報

ソフトウェア名	:	Adobe Acrobat Reader DC - Japanese
バージョン	:	22.001.20117
メーカー	:	Adobe Systems Incorporated
アクセスタイプ	:	未割当て
エディションの種類	:	--

ライセンス詳細

ライセンスの所有者	:	Zoho Japan
購入されたコピー	:	5
管理中のインストール数	:	1
ネットワーク上のインストール数	:	1
対応ステータス	:	ライセンス過剰
関連付けたPC	:	2

購入ライセンス

+ ライセンスの追加

ライセンス名	ライセンス	購入済み	購入日	有効期限日	アクション	関連付けたPC
Adobe Acrobat Reader DC	--	5	13,2022	12,30,2022	...	2

合計: 1 |

ライセンス管理で実施できること

基本情報の登録

- ✓ 保有しているライセンスの名称、数量、有効期限などを登録

コンプライアンス違反の防止

- ✓ 実際にソフトウェアをインストールしているPCの台数を自動的に検出
- ✓ インストール数が保有数を上回った時や、有効期限が切れる前に通知メールを送付

ライセンスを適切に管理し、コストの増大やコンプライアンス違反を防ぎます

「パッチ適用は社員に任せている」「古いバージョンのソフトウェアを使い続けているPCがあるかもしれない」といった現状があると、サイバー攻撃を受けるリスクが高まります。Endpoint Centralは、一連のパッチ管理業務を自動化し、効率的かつ確実なパッチ管理を実現します。

豊富なソフトウェアのパッチ管理に対応



Windows, macOS, Linuxに加え、
850種類以上のアプリケーションのパッチ管理に対応

パッチ管理サイクルを自動化できる



脆弱性情報の収集からパッチ適用結果の確認まで、
一連のパッチ管理業務を自動化し、工数を削減

手間のかかるパッチ管理を自動化し、組織のセキュリティを強化します

OS

Windows: 11, 10, 8.1, 7

Windows Server: 2022, 2019, 2016, 2012 R2, 2012, 2008 R2, 2008

macOS: 12 – Monterey, 11 - Big Sur, 10.15 – Catalina

Linux: Red Hat Enterprise Linux, SUSE Linux, Ubuntu, Debian, CentOS, Pardus, Oracle Linux

アプリケーション

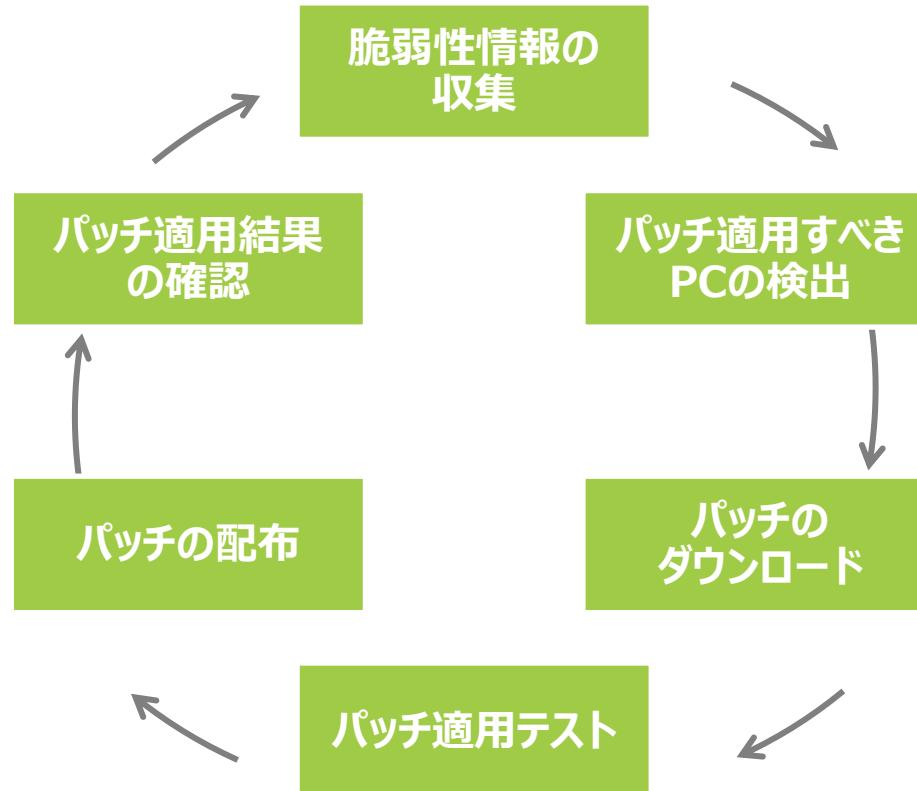
Microsoft製品: Microsoft 365, Office 2019, 2013, 2010

業務アプリ: Adobe Acrobat Reader DCなどのAdobe製品, Google ChromeなどのWebブラウザー

サーバー系アプリ: Apache, Bind, MySQL, OpenSSH, PostgreSQL, SQLite, Ruby, Python

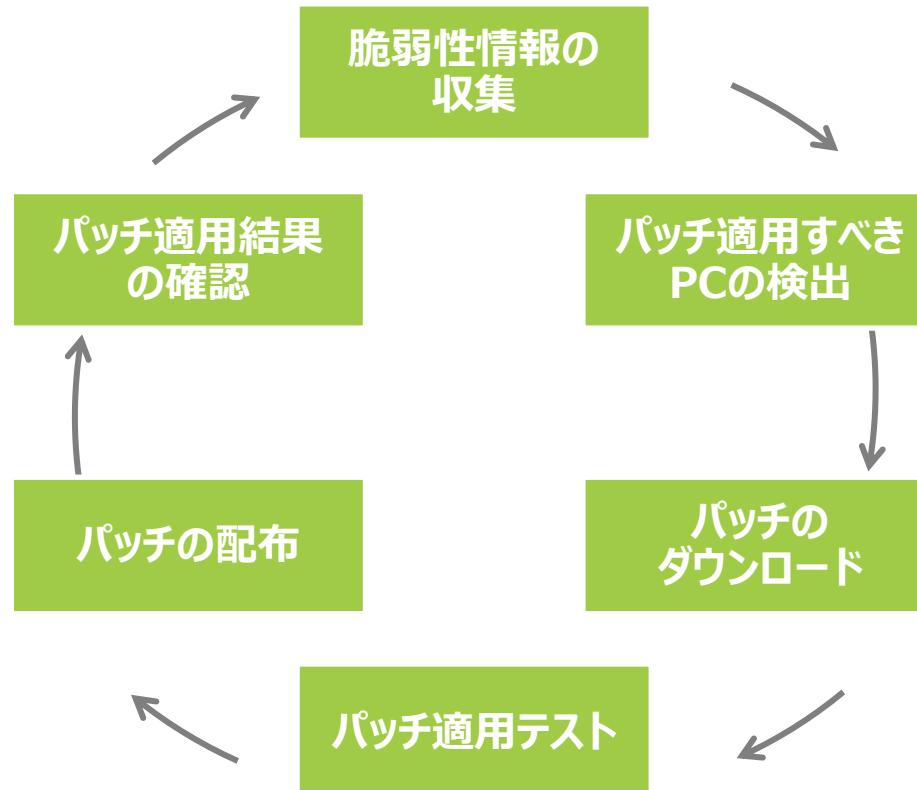
※最新情報は「[対応OS・アプリケーション一覧](#)」ページにてご確認ください

マルチOSと850種類以上のアプリケーションのパッチ管理をまとめて実施できます



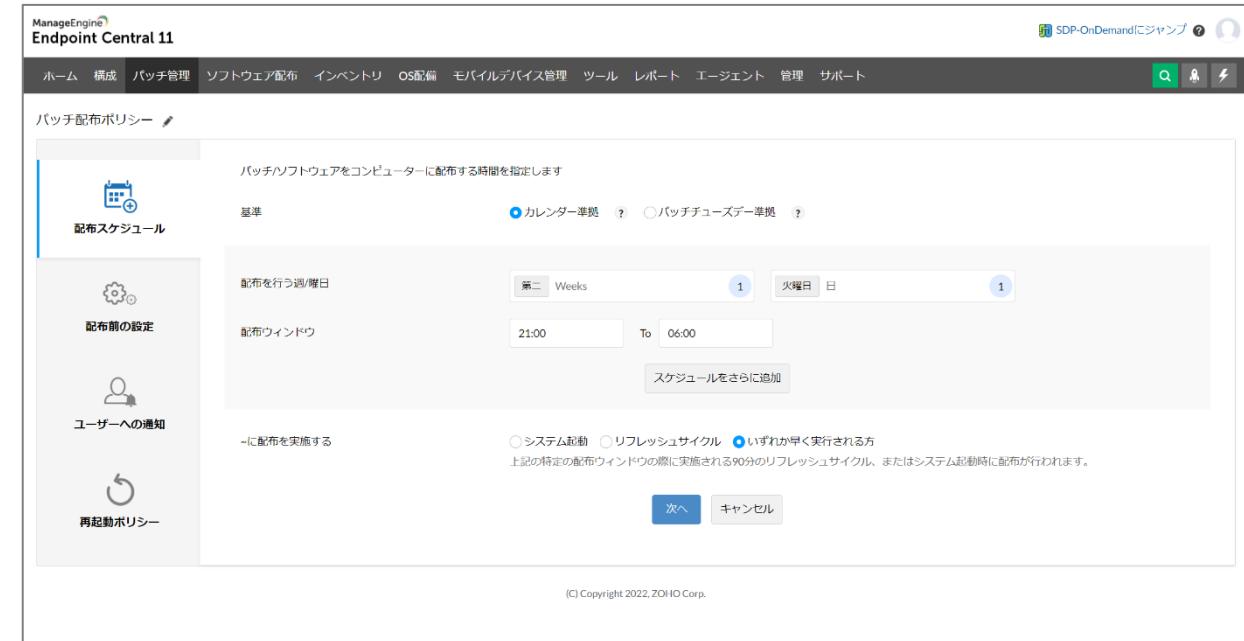
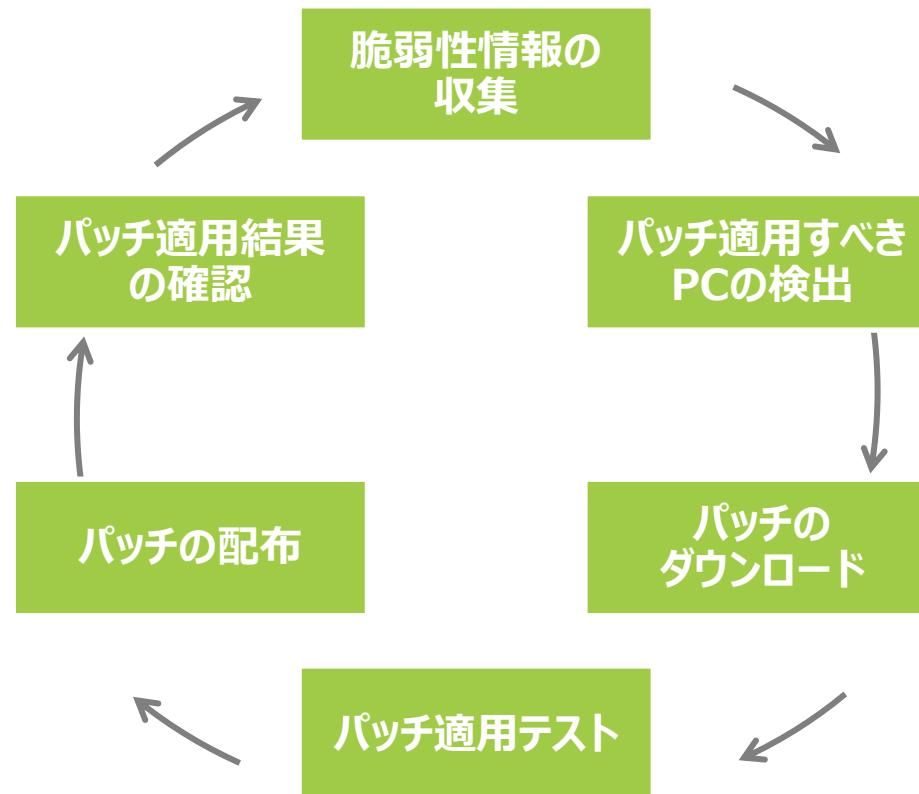
✓ 管理したいパッチの種類を選択するだけで、
最新の脆弱性情報を毎日自動的に収集できる

一連の作業を自動化することで、管理者の工数削減・確実なパッチ管理を実現します



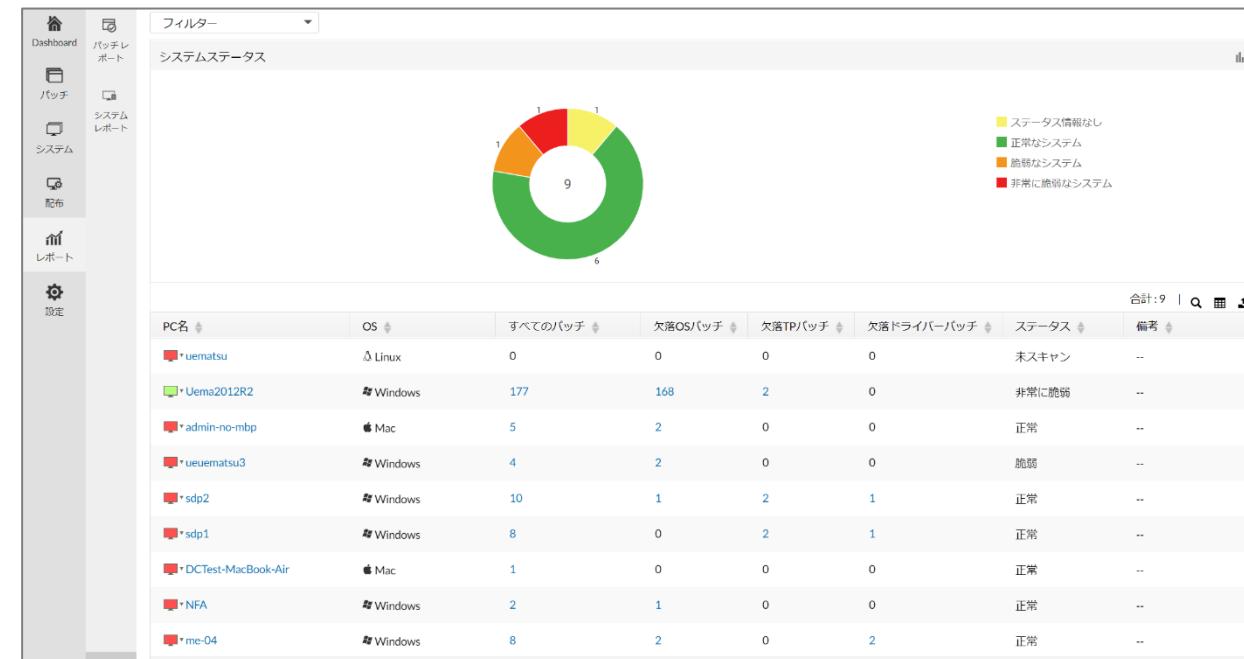
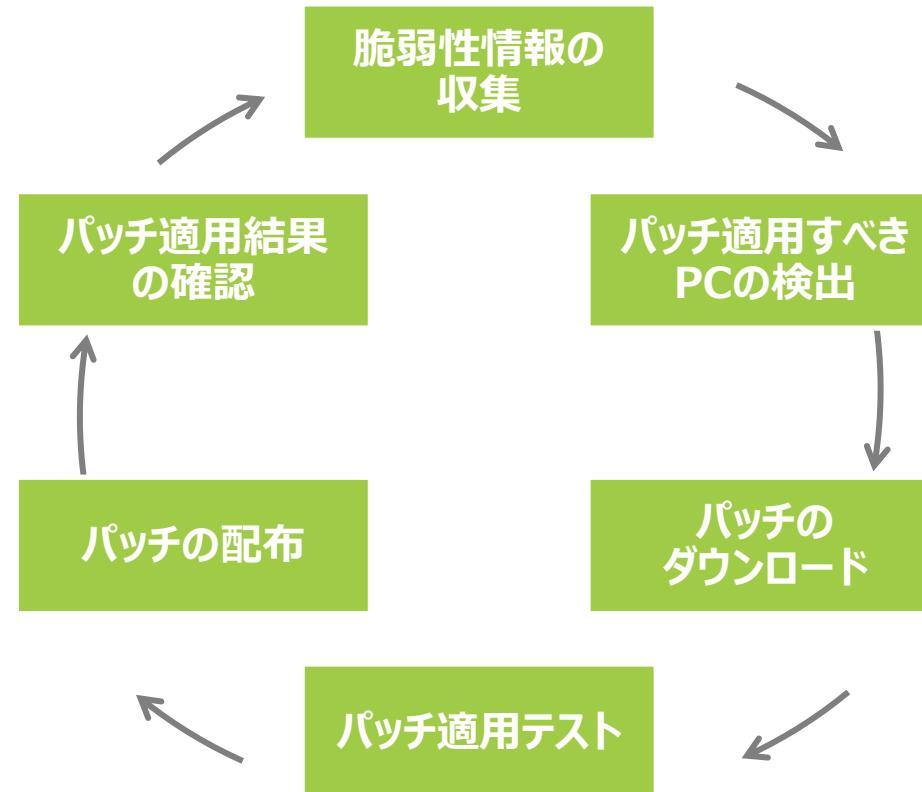
✓ 管理したいパッチの種類を選択するだけで、最新の脆弱性情報を毎日自動的に収集できる

JVNやニュースサイトから手動で脆弱性情報を集める手間がなくなります



あらかじめ設定した日時にて、
指定のコンピューター群にパッチを自動的に適用できる

クラウド版ならテレワーク端末へのパッチ管理もインターネット経由で可能です



「非常に脆弱」「正常」といったコンピューターごとのステータスや、適用すべきパッチの数を確認できる

コンピューターごとのパッチ適用状況を一覧で確認できます

「社員が自由にソフトウェアをインストールしており、ウイルス感染が心配」「ソフトウェア利用申請の管理は手間がかかる」とお悩みではありませんか？Endpoint Centralなら、ソフトウェアのインストール・アンインストールを一括で実施し、業務効率化とセキュリティ強化を実現します。



The screenshot shows the 'Software Catalog' section of the ManageEngine Desktop Central interface. The title bar says 'セルフサービスポータル'. The main area is titled 'ソフトウェアカタログ'. It displays a table with columns: 'アプリケーション名' (Application Name), 'Version', '説明' (Description), 'ベンダー' (Vendor), 'インストール先' (Install Location), '最後のアクション - ステータス' (Last Action - Status), 'Published Time', and 'アクション' (Actions). A single row is visible for 'PowerToys (0.49.1) (x64)', with 'PowerToys (0.49.1) (x64)' in the description and 'Microsoft' in the vendor column. The 'Actions' column shows a blue 'インストール' (Install) button. The top navigation bar includes filters for 'すべての状態' (All States), 'All Apps', 'Published time-All', and a sync status '最終同期時刻 : 2022/03/03 16:07'.

ソフトウェア配布で実施できること

ソフトウェア配布の効率化

- ✓ 管理中のPCにソフトウェアをまとめてインストール
- ✓ セルフサービスポータル経由でユーザー自身が自分に必要なソフトウェアをインストール

禁止ソフトウェアの設定

- ✓ 利用禁止に設定したソフトウェアがインストールされた時に強制的にアンインストール

セルフサービスポータルからは管理者権限なしでソフトウェアインストール可能です

ユーザーが自由にUSBデバイスを利用できる状態になつていませんか？Endpoint Centralは、USBデバイス・Bluetooth・CDROMなどの利用を制限し、デバイス経由でのウイルス感染リスクを低減します。業務で必要な特定のUSBデバイスのみに利用許可を与えることもできます。



Windows構成 > USB制御
USB制御(ユーザー)
構成の名前/説明
名前 * USB制御 説明の追加
ブロック/ブロック解除するデバイスを選択してください
● ワークフローを変更しました。この構成の適用は適切な報告やステータス追跡のため、既存のすべての構成を無効にします。詳細は[こちら](#)
デバイス種類 変更なし ブロック解除(すべてブロック解除) ブロック(すべてブロック)
マウス デバイスを除外する
ディスクドライブ デバイスを除外する
CDROM デバイスを除外する
ポータブルデバイス デバイスを除外する
フロッピーディスク デバイスを除外する
Bluetooth デバイスを除外する
USBカメラ/スキャナー デバイスを除外する
プリンター デバイスを除外する
モデム デバイスを除外する
こちらをクリックしてレポートを表示する

USB制御で実施できること

USBデバイスの利用制御

- ✓ マウス、ディスクドライブ、CDROMなど、10種類以上のデバイスの利用を制限

特定のUSBデバイスの利用許可

- ✓ 業務で必要な特定のUSBデバイスにのみ、利用許可を与えることも可能

業務に必要なUSBデバイスの利用を制御し、セキュリティレベルを向上します

「スクリーンセーバー未設定・設定済みのPCが組織内に混在している」など、ユーザーごとに異なる設定でPCを利用ていませんか？
Endpoint Centralでは、組織内のコンピューターの様々な設定を管理者側で一元管理し、セキュリティレベルを統一することができます。

構成の追加

ユーザー構成はユーザーのログイン/リフレッシュサイクル時に適用され、コンピューター構成はコンピューター起動/リフレッシュサイクル時に適用されます。

Desktop Central Windows Agent Mac Linux

アラート	ブラウザー	証明書の配布	フォルダーリダイレクト
カスタムスクリプト	ディスプレイ設定	ドライブマッピング	環境変数
ファイル/フォルダ操作	ファイアウォール	フォルダーバックアップ	フォルダーリダイレクト
フォント	一般機能	グループ管理	IPプリンター
パッチインストール/アンインストール	ソフトウェインストール/アンインストール	アプリケーション実行	法的通知
MS Office	MS Outlook	メッセージボックス	MS Outlook Exchange プロファイル
「パス」	権限管理	電源管理	レジストリ
スケジューラー	USB制御	セキュリティポリシー	サービス
ネットワークプリンター	ショートカット	ユーザー管理	WiFi

クイックリンク

(C) Copyright 2022, ZOHO Corp.

適用できる設定の一例

セキュリティ対策に

スクリーンセーバー, Windowsファイアウォール, ファイル・フォルダの権限管理

業務の効率化に

スクリプトの配布, レジストリの追加・変更

※Endpoint Centralで管理できる設定は、管理対象のコンピューターのOSごとに異なります

端末の設定を一元管理することで、組織のセキュリティレベルを統一します

「テレワーク中のユーザーのPCサポートが思うように進まない」「トラブルシューティングを効率化したい」とお悩みではありませんか？
Endpoint Centralなら、ユーザーの端末にリモート接続することで的確に状況を把握し、スムーズにトラブルを解消することができます。



リモートコントロールで実施できること

リモート接続

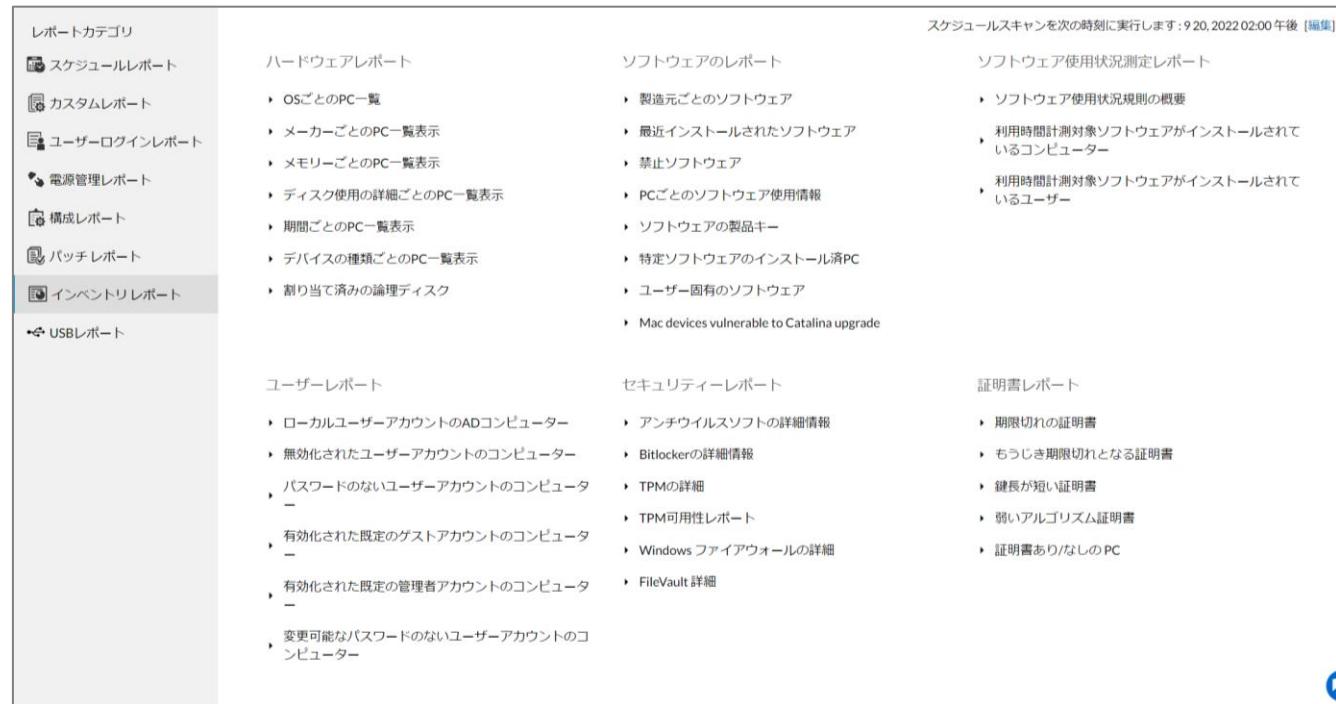
- ✓ ユーザーの端末にリモート接続し、遠隔からトラブルシューティングを実施
- ✓ ユーザーの画面のブラックアウトや、マウス・キーボードの無効化も可能

※システムマネージャー機能を利用して、遠隔からコマンドの実行やプロセスの停止を行うことも可能

遠隔地のコンピューターのトラブルシューティングも円滑に行えます

「監査や定例会議に必要なレポートの作成に時間がかかる」とお悩みではありませんか？

Endpoint Centralは、デフォルトで100種類以上のレポートを用意しており、ワンクリックするだけで簡単にレポートを作成できます。



レポートカテゴリ

- スケジュールレポート
- カスタムレポート
- ユーザーログインレポート
- 電源管理レポート
- 構成レポート
- パッチレポート
- インベントリレポート**
- USBレポート

ハードウェアレポート

- OSごとのPC一覧
- メーカーごとのPC一覧表示
- メモリーごとのPC一覧表示
- ディスク使用の詳細ごとのPC一覧表示
- 期間ごとのPC一覧表示
- デバイスの種類ごとのPC一覧表示
- 割り当て済みの論理ディスク

ソフトウェアのレポート

- 製造元ごとのソフトウェア
- 最近インストールされたソフトウェア
- 禁止ソフトウェア
- PCごとのソフトウェア使用情報
- ソフトウェアの製品キー
- 特定ソフトウェアのインストール済PC
- ユーザー固有のソフトウェア
- Mac devices vulnerable to Catalina upgrade

ユーザー報告

- ローカルユーザー アカウントのADコンピューター
- 無効化されたユーザー アカウントのコンピューター
- パスワードのないユーザー アカウントのコンピューター
- 有効化された既定のゲストアカウントのコンピューター
- 有効化された既定の管理者アカウントのコンピューター
- 変更可能なパスワードのないユーザー アカウントのコンピューター

セキュリティーレポート

- アンチウイルスソフトの詳細情報
- Bitlockerの詳細情報
- TPMの詳細
- TPM可用性レポート
- Windows ファイアウォールの詳細
- FileVault 詳細

証明書レポート

- 期限切れの証明書
- もうじき期限切れとなる証明書
- 鍵長が短い証明書
- 弱いアルゴリズム証明書
- 証明書あり/なしのPC

作成できるレポートの一例

インベントリ情報把握に

OSごとのPC一覧, 最近インストールされたソフトウェア一覧, 保有ライセンス一覧

ユーザーの勤怠把握に

ユーザーのログイン履歴, システム稼働時間レポート

※定期的にレポートを自動出力し、
指定のメールアドレス宛に送付することも可能

必要な情報をワンクリックで出力し、IT管理者の業務を効率化します

「クライアントPCとモバイル端末は別のツールで管理している」「端末紛失・盗難時の対策ができていない」といった現状はありませんか？
Endpoint Centralなら、iOSやAndroidなどのモバイル端末も1つのコンソールでまとめて管理し、セキュリティ対策を強化することができます。



MDMで実施できること

紛失・盗難対策

- ✓ 端末の位置情報の確認、リモートロック・ワイプが可能

インベントリ情報収集

- ✓ ハードウェア・ソフトウェア情報を自動的に収集し、IT資産管理台帳を作成できる

アプリの利用制限

- ✓ ブラックリスト方式でのアプリ管理や、アプリの一括配布が可能

PCと同様にモバイル端末も一元管理し、組織のセキュリティレベルを向上します

アジェンダ

1

IT資産管理・モバイルデバイス管理のよくある課題

2

Endpoint Centralの3つの特徴

3

Endpoint Centralの主要機能の紹介

4

参考情報

Endpoint Centralの特徴や機能を20分で紹介します

グローバルで
3万社を
超える組織が導入

本社導入実績



CLEMENS
FoodGROUP



SYNCADA®
from Visa

TRIPLE-S SALUD
BlueCross BlueShield of Puerto Rico

ADS SECURITIES

Medxcel
Advancing Global Healthcare

LT Foods

様々な業界、企業規模でご利用いただいている製品です

導入事例



導入事例

製品概要資料ダウンロード 統合エンドポイント管理

ManageEngine > 統合エンドポイント管理 Desktop Central > 導入事例

株式会社マイステイズ・ホテル・マネジメント様

MYSTAYS
MYSTAYS HOTEL GROUP

ユーザーもヘルプデスク担当も在宅で運用可能に / 3000台を超えるPCを少人数のIT部門で効率的に管理

[» この事例の詳細を見る](#)

日揮ホールディングス株式会社様

JGC JGC GROUP

英語版OS対応、使い勝手に優れた統合エンドポイント管理ソフトで、グローバル人材が使うエンジニアリング用VDIの環境を効率的に管理

[» この事例の詳細を見る](#)

株式会社セキュアブレイン様

SecureBrain

マルチOS、アプリケーションの脆弱性パッチも一元管理
サイバーセキュリティの専門企業が選んだIT資産管理ツール

[» この事例の詳細を見る](#)

アイペット損害保険株式会社様

ipet

マルチOS/アプリのパッチ管理工数を80%削減！
サーバー基盤を含む管理を実現する統合エンドポイント管理ソリューション

[» この事例の詳細を見る](#)

国内導入事例についてはこちらをご参照ください：https://www.manageengine.jp/products/Endpoint_Central/case-studies.html

国内導入事例はWebページに掲載しています

費用

オンプレミス版		クラウド版		
年間ライセンス	通常ライセンス	年間ライセンス		
Enterprise Edition	Enterprise Edition	UEM Edition	Security Edition	
21.8万円/年~ サポート付	48.6万円~ 初年度サポート付	21.8万円/年~ サポート付	33.2万円/年~ サポート付	38.3万円/年~ サポート付
=ひと月あたり約18,200円~ <ul style="list-style-type: none">1年間利用可能な製品ライセンスで、年間保守サポートサービスが含まれています。1年ごとに年間ライセンス契約を更新します。	<ul style="list-style-type: none">無期限の製品ライセンスに、初年度のみの年間保守サポートサービスが含まれています。2年目以降は1年ごとに年間保守サポートサービス契約（11万円~）を更新します。4年以上利用する場合は、価格が抑えられます。	=ひと月あたり約18,200円~	=ひと月あたり約27,700円~	=ひと月あたり約32,000円~ <ul style="list-style-type: none">1年間利用可能な製品ライセンスで、年間保守サポートサービスが含まれています。1年ごとに年間ライセンス契約を更新します。

詳細な価格表についてはこちらをご参照ください：https://www.manageengine.jp/products/Endpoint_Central/pricing.html

ご要望に応じて、お好きなライセンス体系をお選びいただけます

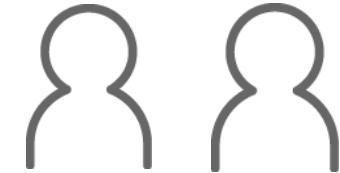
ライセンスの課金対象

PC・サーバー・モバイルデバイスの台数



Endpoint Centralで管理したい
エンドポイントの台数

追加ユーザーの人数



Endpoint Centralを操作する
管理者ユーザーの追加人数

- 上記の数を明確にしたら、必要な台数・人数まで利用できるライセンスを選びます。
- 詳細なライセンス情報・価格表は「[Endpoint Centralの価格](#)」にて公開していますので、ご参照ください。
- ご不明な点がございましたら「[営業窓口へのお問い合わせ](#)」を経由してご質問ください。

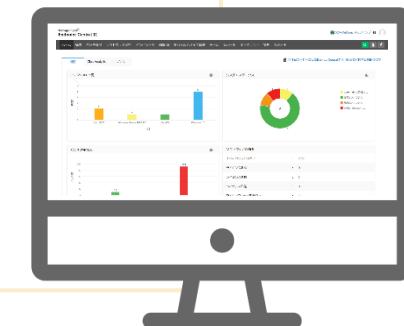
Endpoint Centralのライセンス価格は、「管理台数」と「管理者ユーザー数」で決まります



無料ですべての機能が試用できます

https://www.manageengine.jp/products/Endpoint_Central/download.html

- 試用開始後**30日**経過すると無料版に切り替わります
- クラウド版／オンプレミス版どちらもご試用可能
- 評価版ご利用期間中に限り、**技術サポートを無料**で提供



お気軽にお試しください

まずは製品Webサイトへ



ManageEngine Desktop Central

評価版ダウンロード

ご購入のお客様へ

このページから製品をダウンロードすると販売促進メールが届くことがあります。メールが不要のお客様はManageEngine Community (お客様専用サイト) ログインし、製品をダウンロードしてください。

ManageEngine Communityの使用方法についてはユーザーマニュアルをご確認ください。

評価版ダウンロード

30日間すべての機能を無料で試用できます。インストール後30日経過すると自動的に無料版に切り替わります。

評価期間の延長を希望される場合は [お問い合わせ](#)ください。

また、脆弱性診断サービスも承っております。

ご希望の場合は、ダウンロードフォームの「見積りその他ご要望」の欄にその旨ご記入ください。

Desktop Central 10.1 Windows版(64bit/426 MB)

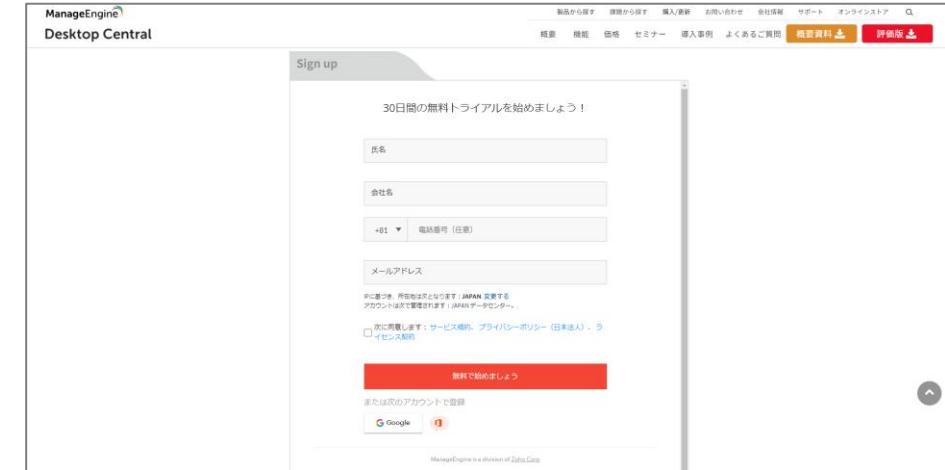
Desktop Central Cloud 無料サインアップ

評価版のご利用時の注意事項



サイト内の赤色ボックス「評価版」をクリックすると、評価版の案内ページに飛べます

アカウント作成するだけで利用開始可



ManageEngine Desktop Central

Sign up

30日間の無料トライアルを始めましょう！

氏名

会社名

+81 電話番号 (任意)

メールアドレス

ご了承いただけますか？ JAPAN 変更する
プランごとに登録料が発生いたします。JAPANデータセンター。

次に進みます：サービス規約、プライバシーポリシー (日本法人)、ライセンス契約

無料で始める

または既存のアカウントで登録

Google

ManageEngine is a division of Zoho Corp.



クラウド版は特に手軽。お名前などの基本情報を入力するだけで、すぐに製品を試せます

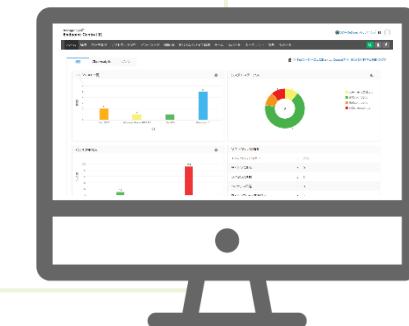
お気軽にお試しください



ご要件に沿った説明を受けられます

https://www.manageengine.jp/online_meeting/

- 製品担当者による相談会を**無料**で実施いたします
- パソコン画面を共有するため、**実際の画面や使用感**がわかります
- 気になる点やご不明点について、**その場で解消**いたします



お申込みフォームよりお気軽にご連絡ください

お問合せ先

ゾーホージャパン
株式会社



ManageEngine 営業担当

神奈川県横浜市西区みなとみらい三丁目6番1号
みなとみらいセンタービル13階

TEL : 045-319-4612

Email : jp-mesales@zohocorp.com

<https://www.manageengine.jp/>

特徴がわかる 概要資料

エンドポイント管理についてよくお聞きするお悩み事

ManageEngine

Bringing IT together

幅広いOSに対応する統合エンドポイント管理

Endpoint Central

ゾーホージャパン株式会社

拠点が複数あるため、管理工数が増加している

パッチ適用なども一元的に集中管理したい

IT資産管理に関する現在の課題やお悩みごと等、ぜひご相談ください